

たはら

令和7年1月20日



田原小 HP

来年度に向けた取り組みについて

2学期末には学校評価アンケートに回答をいただき、ありがとうございました。今回の結果を参考に、2学期までの教育活動を多面的に振り返ることによって、来年度の学校の取り組みについて、全職員で検討をしています。ここでは「チーム担任制」と1学期末の結果から変更して取り組んできた「家庭学習のあり方」に分けて記載をさせていただきます。

1 チーム担任制について

ア 2学期末の学校評価アンケート結果の考察

今年度から、チーム担任制を行い、児童理解や授業改善に努めてきました。2学期末の学校評価アンケートでは、「いろいろな学年の子と関わりをもつことができた」に97.1%、「自分から進んであいさつをすることができた」に91%と子どもが回答をしています。これらは1学期末の結果と比べて高くなっています。理由としては、「今年になってから人と関わるが多くなり、いろいろな人としゃべれるようになったり、地域のの人にあいさつできるようになったりした」「1年生と6年生で関わる授業があって、1年生ともっと仲良くなれた」などがありました。

保護者の方からは、「先生たちは、子どものことを理解して指導に当たっていると思う」に92.6%と肯定的な回答を寄せてくださいました。「算数を2クラスに分けたことで、一人一人に先生の目が行き届きやすくなってありがたい」「本人の学ぶペースに合わせて関わっていただき感謝しています」「わからないところを先生と一緒に解決できた」など、教科担任制による子どもと教員のよい人間関係づくりができていることがうかがえました。また、「お子さんの話から学校でいろいろな学年の子たちと関わっていると感じる」に88.1%の回答をいただき、今年度、取り組んできた合同授業や異学年交流にも成果が表れてきていると感じました。

上記のことから、今後もチーム担任制は継続をし、さらに発展を図りたいと考えています。

イ よりよい田原流チーム担任制を目指して

本校の職員室内は、チーム担任制の取り組みにより、授業や子どもたちに関する話題が増えました。例えば、一人の子どもの悩みをチーム職員で共有し合い、早急に対応策を講じたり、授業では、子どもの実態に合わせた進め方をチームで研修したりして、「広くて深い」児童理解や授業改善につながるようにしています。こうした取り組みの中で、職員から「チーム内の職員数を少なくしたらどうか」「3年生と4年生は同じチームの方が運営上効果的である」などの意見が出され、よりよいチーム担任制にすべく検討を重ねてきました。チーム内の職員数が多いことに関連して、数人の保護者

から「1人の職員が100名近い子どもを把握できているのか心配である」「誰に相談して良いかわからず混乱する」と意見をいただいたこともありました。

そこで、来年度からは、「3学年編成」だったチームを「2学年編成」にしてはどうかと考えています。具体的には、1・2年生で低学年チーム、3・4年生で中学年チーム、5・6年生で高学年チーム、特別支援学級チームという2学年・4チーム編成となります。この変更により、一人の職員が把握すべき子どもの数が減少することで、職員はより深い子ども理解の実現につながります。さらに、子どもも2人の学級担任ができたことと認識しやすくなり、相談しやすい安心感を高めたりすることができると考えます。

授業では、特定の教科において、チーム内の職員が交換授業を行うことで、どちらの職員も授業中の子ども一人ひとりの表れを理解するとともに、子どもと話しやすい関係づくりを構築します。そのうえで、担任ローテーションを実施し、授業以外の友達同士のかかわりを観察するとともに、子どもの悩みや子ども同士のトラブル等が見られたら早めに対応することもねらいとします。

上記の具体策については、3学期に効果検証を行い、来年度の取り組みにつなげていきます。

2 家庭学習のあり方について

2学期以降の家庭学習は、9月3日に配布した学校だよりNo.5にも記載したとおり、学校で学習したことの定着や自ら学ぶ力を高めることを目指してきました。具体的には以下の内容です。

- ① 基礎学力定着のための復習があります。例えば「書き取り」や「算数（反復）」です。
- ② 次の授業へ見通しを立てるための予習があります。例えば「音読」や「調べ学習」です。なお、「音読」は国語に限らず社会や理科等も想定しています。
- ③ 3年生以上は、自ら学ぶ力を高めたり、発展的な学習に取り組んだりする「自主学習」があります。1週間に1ページ以上を目安に声掛けをしていきます。

今回のアンケートでは、「わかる（できる）ようになるために、自主学習など自分で考えたやり方で学習を取り組むことができた」に肯定的に回答した児童が84.2%で、「自主学習を自分で決めることができる」「家庭学習で自分の気になったことを勉強することができる」という理由がありました。逆に「もう少し家庭学習を増やしてほしい」「日によって家庭学習の量に差がある」などという回答もありました。一方、保護者の方からは「お子さんはわかるようになるために、自分で考えたやり方で取り組むことができる」に肯定的な回答は78.5%で、「1週間の家庭学習がわかりやすく提示されたので自分で計画的にできていた」「家庭学習の内容と提出日が固定されているので、子どもは計画的にルーティーンワーク的に取り組んでいる。家庭学習を子どもに安心して任せられるので、今のやり方はよいと感じている」という意見がありました。逆に、「自主学習では、何をしてもよくわからなくて、いつも書き取りになってしまう」「懇談会などで事前説明があるとありがたい」などという声もありました。

家庭学習については、家庭学習の量や自主学習の取り組み方について検討を行い、来年度は4月

の懇談会での説明ができるよう進めていきます。

上記に記載したことを来年度に向けて、さらに改善できるよう検討をしていったり、試行をしていったりします。保護者の方からは「チーム担任制で、たくさんの先生が子どもたちに関わり見てくれる安心感があります」「教員が少ない中でチーム担任制に取り組み、子どもたちのためにより教育のあり方を考えてくださる姿勢に感謝します」などの励ましをいただきました。1月20日からよりよいチーム担任制を目指した効果検証を実施していきます。一部の教科担任の変更を子どもたちに伝えたときに、授業で初めて関わる職員との出会いを喜ぶ子どもたちの様子がありました。

今後も保護者や地域の皆様の御理解・御協力のもと教育活動を進めていきます。よろしくお願いいたします。

